# 卒業記念号

発行所
長崎県立五島高等学校
新聞部
長崎県五島市池田町１番１号
平成27年３月１日発行

# 自己の哲学を持て

学校長　西川晃二

「世界」との出会いについて、個人的な記憶を振り返る。

ベトナム戦争末期、パリにて和平会談が行われた。当時小学校四年生だったろうか、授業の宿題か何かで詩の創作が課せられ、私はベトナムに平和をもたらすであろう会談をテーマに作詩したことを覚えている。長崎新聞社主催であった。その後中学時に南ベトナムの首都、サイゴン陥落のニュースに驚き、テレビの実況中継に見入った。自由主義の大国アメリカの敗北は衝撃的なニュースであった。

次いで、私と世界とのつながりの記憶は、一気に飛ぶ。大学時のイラン革命である。当時のパーレビ王朝が倒され、王は国外に亡命。イスラム教の宗教指導者ホメイニ師が政権を担った。価値の大転換が世界を突き動かしていくのを実感した。

欧米のキリスト教近代思想が世界を覆いつくし、アメリカは善であり、キリスト教の一神教に世界が疑わなかった時代。イスラム教による宗教国家の出現は、当初私には前近代の異物か、中世の復活かのように感じた。当時、友に語ったことが思い出される。資本主義対社会主義、自由経済対社会経済の2項対立の時代は過ぎ去った、新たな時代が幕を開けたのだと。

そしてベルリンの壁の崩壊。

イラン革命から40年近く経ち、今や、グローバル社会への対応がかまびすしく議論されている。では、グローバル社会とはいったいどのような社会なのであろうか。かつて、グローバル化により世界が均質になり、単一化（フラット化）していくのだろうと考えたこともある。また、グローバル化＝アメリカ化とも思ったこともあるが、どうもそうではない。現在、世界では単一化よりも、むしろ多様化が進んでいると考えられる。国籍や民族の異なる人々、そしてそれぞれが持つ文化が、グローバル化する世界で異文化としてグラデーションを描き始めているのではなかろうか。多様な社会の現出がなされたのだ。つまり、世界は、多種多様な価値観が存在する社会によって構成されているということが改めて我々の認識の対象となってきている。

では、そうした社会に我々はどういう立ち位置を持していけばよいかが次の課題となる。単に英語を話せるということに議論が収斂していくだけで良いのか。そうではなかろう。多様な社会に対応するためには自己の哲学を強固にせねばならないのではないか。またそのためには拠って立つ場を見つめ固める必要はないか。諸君にとって拠って立つ場は何か、ということが次の問題になる。

自己の存在に目を向けぬ者が、自分探しの夢を安直に描くだけでは何も見いだせない。これから長い航海が始まる。自己の哲学を有した、真の自分を描き出すことを祈念する。

# 卒業生のみなさん

生徒会長　青山睦

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

在校生一同、心からお祝い申し上げます。

三年前、真新しい制服に身を包み、期待と不安を胸にくぐった校門。その日から早三年が過ぎた今、皆さんは何を考え、何を思い出されているのでしょう。

これまで先輩方は、この学校の最上級生として、勉強や部活動はもちろん、その他の活動でも、時には優しく、時には厳しく、私たちをリードしてくださいました。

特に体育祭では、限られた時間を有効に利用し、私たちのため、自分たちのため、そして、学校のために、素敵な体育祭を作ろうとしている姿がとても印象的でした。勝ち負けの世界の中で、敵も味方も関係なく体育祭そのものを楽しんでいる先輩方を見て、私たちもこんな先輩になりたい、と目標を持つことができました。

私たちの誇りであり、憧れであり、目標である先輩方が卒業するのは、とても心細く、不安に感じられます。しかし、先輩方が新たな一歩を踏み出すように、私たちもまた、新たな一歩を踏み出せるよう、精いっぱい頑張りたいと思います。

これから先、先輩方の行く手には、楽しいこと、うれしいことのほかに、辛いことや苦しいことが起こるかもしれません。そんな時、これまで五島高校で過ごした時間を思い出してください。「辛い」という字に一を足す。すると、「幸せ」になる。辛いことを乗り越えてこそ、幸せに近づくきっかけになる。これは、皆さんが一番知っているのではないでしょうか。

先輩方、これまで本当にありがとうございました。どうか先輩方一人ひとりの未来が、明るく、幸せに輝きますよう祈念し、ご挨拶といたします。

# 福江みなと祭り

昨年十月十八日(土)、十九日(日)に福江みなとまつりが行われた。我々五高生は、二年ぶりにねぶたを曳いて参加をした。一年生は、五高生としての初めての参加。五島高校の校章をつけたはっぴを身にまとい、生き生きとした顔でねぶたを担いでいた。五島高校の横断幕を持ち先頭をきる生徒らに続き、マーチングとして参加をした吹奏楽部の生徒らも、ねぶたに負けぬ勢いで一生懸命演奏をしていた。大通りに入ると、吹奏楽部の演奏とともに校歌を歌う生徒たちの姿が、ねぶたよりも輝きを発していた。一般客として祭りを楽しんでいた五高生の中には、校歌を口ずさむ生徒も見られた。大通りを過ぎ、人気の少なくなった終盤まで、生徒らは祭りに携わっていた。祭りを終えると、たくさんの生徒に笑顔が見られた。ねぶたを曳いた生徒、マーチングとして参加をした吹奏楽部、生徒を見守ってくれた先生方、全員が一心同体となり、福江みなとまつりを盛り上げていた。縁の下の力持ちとは、こういうことを言うのではないだろうか。次回の福江みなとまつりへの参加にも、期待が膨らむ。（慶）

街を練り歩く生徒たち

五高ねぶた

# たくとの『叫び』

五高写真館

団長自ら力の限り応援し続けました。体育祭のテーマ「躍動」を表現する一枚となりました。（野）

（平成26年度 五高体育祭にて）

部説

# 災害に備える

## ～常に万全の対策を～

皆さんは災害についてどういった意識を持っているだろうか。「いつ自分の身に起こるか分からないもの」これが模範解答に近いだろう。しかし、本当にそう思うことができているだろうか。

昨年の夏から秋にかけて、日本では二つの大きな災害が発生した。八月二十日に起きた広島市安佐南区での大規模な土砂災害。そして、戦後最悪の火山災害となった御嶽山の噴火はまだ記憶に新しい。

しかし、こういった大きな災害を、私たちはどこか他人事だと思っていないだろうか。五島は活発に活動している火山こそ無いものの、一時間に五十ミリ以上の激しい雨を、年に数回観測しており、大雨が降る可能性は十分にあるといえる。

そして、五島に一番大きな影響を与える災害は台風だ。近年でも、平成二四年台風一六号によって、島内の多くの地域で停電が発生したことがある。また、さらに過去の資料を見てみると、昭和六二年台風一二号によって、福江では最大瞬間風速五五メートルという猛烈な風を観測し、五島市だけでも、全半壊した家屋は百棟以上にのぼったという。

このように、五島は決して災害と無縁な地域とは言えない。

それではこのような災害から身を守るためにはどうすればいいのだろうか。私はそのためには、危険を予測することが重要だと考える。

災害時の混乱の中で自分の身を守るのは、結局は自分自身である。危険を回避するために、自分が住んでいる地域で起こりやすい災害を考えたり、避難場所を確認したりしてはどうだろうか。

いつ来るか分からないから対策を行わないのではなく、いつ来るか分からないからこそ、いつ来てもいいように対策をすることが、防災では一番重要なことである。（槻）

《インタビュー》

# 五島人

## 地域おこし協力隊 間宮 明未さん

他人のために力を尽くしたことがあるだろうか。ここ五島市では、現在、七人の地域おこし協力隊員が活躍している。彼らは、各地域に住み込んで、地域おこし活動の支援や、農業・漁業の応援をしている。

今回の五島人は、そんな地域おこし協力隊として岐宿地区で活躍している、間宮明未さんだ。

間宮さんは、去年の三月まで東京でOLをしていた。ご主人の仕事の都合により、五島に移住してきた。五島ではつばき油などが有名であることを知り、このような五島のいいものを都会にアピールしたいと思い、協力隊に入った。そんな間宮さんに話を聞いた。

――今までにどのような活動をしてこられましたか。

**間宮さん**　昨年四月から活動を始めました。島外から旅行客を募り一般の民家での民泊を体験してもらい、五島だからこそできる、釣り、野菜の収穫などの体験型観光を行ってきました。また、今年の一月に行われた旬の味覚体験ツアーでは、イチゴ収穫体験、イチゴ大福作り、牡蠣打ち体験を岐宿の人から協力者を募って実施しました。さらに、今年は修学旅行生の受け入れが決まり、奈良の中学生六十人が来ることになっています。

――五島のことをどう思いますか。

**間宮さん**　五島の人は、都会の人とは違って親切で優しく、また、手つかずの自然がたくさん残っていて、いいところだと思います。

――活動をしていく中で大変だったこと、驚いたことは何ですか。

**間宮さん**　最初に来た頃には、五島の独特な方言が理解ができず、同じ日本でもこんなに違うのかと思いました。また、来る前は小さな島だと思っていましたが、実際に来てみるととても広く、それぞれの地域の特性、方言、祭りなどの文化の違いがあり、それぞれが独特のカラーを持っていることに驚きました。

――活動のなかでやりがいを感じたことは何ですか。

**間宮さん**　活動のインストラクターになってくれた地域の方々が自分の仕事を教えることで、参加者が喜び、さらに地域の方々自身も元気になりました。その姿を見た時、嬉しさとやりがいを感じました。

――今後の活動の目標は何ですか。

**間宮さん**　岐宿の人は、他の地域に比べて自分の地域には何も無いと言いがちですが、岐宿にも良いところがたくさんあるのでもっと自分の地域に自信をもって欲しいと思います。そのために、観光客に立ち寄ってもらえるレストランや岐宿ならではの名産品などを作り、岐宿の人が地域に誇りを持ち地域に残って頑張ってくれる人を増やしたいです。

――最後に五高生に一言をよろしくお願いします。

**間宮さん**　最初に五島に来たときは、中学生や高校生が知らない人にでも必ず挨拶をしていて、地域の絆が残っている場所だと思いました。そんなところで育ってきた皆さんは、優しさや思いやりを持っていると思います。みなさんは島から出る人が大半だと思いますが、そういった人としての本質の部分を忘れてほしくないです。それは、自分も五島に来て気づかされたことです。都会では地域のつながりが薄くなり、隣に住んでいる人も分からないような状況になっています。そんななか、地域の人とのコミュニケーションの大切さなどを忘れずに過ごしていってほしいです。

私たちの知らないところで、五島のために活動をしてくださっている協力隊員の方々。彼らの活動に感謝し、我々もまた、一五島人としてこの五島を盛り上げていきたい。（慶）

笑顔で語る間宮さん

## CDレビュー

一人になるとついロずさんでしまう。「シアワセノシルシ」芸術鑑賞会はまだ記憶に新しい。我が五島高校の卒業生であるシンガーソングライター、江頭つとむさんが昨年十月八日に行われた芸術鑑賞会に来てくださった。今回はバンドとして四人のメンバーで演奏してくれた。自然と耳に入り込んでくる声は大変美しかった。非常に心優しい方で、歌の他にも高校生時代のお話なども聞かせてくれた。私たち五高生のために素敵な音楽を演奏してくれた江頭さん他、メンバーの皆さんに感謝したい。

今回はそんな江頭つとむさんの曲をレビューしたいと思う。タイトルは「美しい世界」。

二〇一二年に発表されたアルバムだ。②は、芸術鑑賞会でこの曲をバックに全員が立ち上がり、盛り上がった。⑧は親和銀行（長崎）のCMに使用されている。⑨は、私事だが一番気に入っている曲だ。鑑賞会では曲の最後の方でコールアンドレスポンスをし、会場が温かい空気になった。

江頭さんの曲には、どこか人を魅了するものがある。これらの曲は動画投稿サイトYouTubeなどで簡単に聴くことができる。勉強を終え少し時間があるときや、心を落ち着かせたいときなどに聴いてみてはどうだろうか。（慶）

「美しい世界」江頭つとむ

1. レインボー
2. kirakira☆未来スケッチ
3. Persona
4. MAHOROBA
5. sei
6. One day of the 28 years old last
7. My life
8. タイムマシーン
9. シアワセノシルシ

# 僕らの軌跡 FROM ME TO YOU

### Class 3
**安永 武志郎**（野球部）

三組は、二組だった人と三組だった人、いろんな人が混ざったクラスでした。うるさいキャラの人もいれば、おとなしい人もいました。「他人の人生の邪魔をしないこと」をクラスの目標というか、ルールとして頑張ってきました。衝突することも多々ありました。その中で反省し、どのようにしたら他人の迷惑にならないかと考え、行動するようになりました。そして、クラスがまとまり始めました。進路が決定している人も土日の自学会に参加して、進路が決まっていない人と一緒に頑張ってくれました。

これから別々の場所での生活が始まります。三年間で培ってきたことを活かして頑張っていきましょう。

### Class 2
**入江 郁也**（野球部）

三年二組は、担任の熱血英語教師：前川先生と副担任の美人で婚活中の山下先生を迎えてスタートしました。毎日毎日明るく楽しく笑いの絶えないクラスでした。体育祭、競技大会、美化コンクールと全ての行事に全力で取り組みました。しかし、なかなか勉強に身が入らず、自学態度が悪いと注意を受けたり、学習合宿では男子全員帰らされそうになったりしました。そんな二組も次第に勉強への態度が変わっていきました。仲間に配慮して行動することができるようになり、自分たちで勉強できる集団になりました。仲間のために頑張れる、『一致団結できる』こんな二組のメンバーが将来どうなるか楽しみです。卒業しても定期的に集まってご飯を食べに行ったり、遊びに行ったりしたいですね。末永く、死ぬまでよろしくお願いします。

### Class 1
**降田 貴大**（新聞部）

『歳月流るる如し』とよく言いますが、この五島高校で過ごしてきた三年間も、何時の間にか流れていこうとしています。しかし、この歳月は密度が濃く、誰にとっても掛け替えのないものであるはずです。

私が高校生活において最も身に染みたことは「持つべきものは友」ということです。友人と苦楽を共にし、成し遂げてきた様々な行事は今でも心に残っています。

例えば体育祭。「優勝」という二文字を手にするために各々が役割を全うして練習に励みました。しかし、途中で意識の差が出ることもありました。そのような時には、クラスや役割の枠を超えて互いに注意し合い、壁を乗り越えていきました。この経験を通して、改めて友人のことを知り、絆が深まったことは言うまでもありません。

この五島高校で学び得たことは己の人生の土台となるはずです。友人達と共にそれぞれの人生へとスタートを切ります。

### Class 7
**赤松 利栄**（卓球部）
**白石 紗也香**（インターアクト部）

私たち三年七組は一人ひとりが明るく元気で常に笑いの絶えない賑やかなクラスです。思い出に残っていることは病院実習です。知識や技術も未熟で、日々日誌に追われ寝る間も惜しんで一年間頑張ってきました。しかし、そんな中で厳しいことだけではなく楽しいこともありました。それは患者様とのコミュニケーションです。コミュニケーションは患者様の不安を軽減することに繋がりますが、自分自身の心の癒しにもなります。病院実習はとても大変ですが、いつも新鮮で多くのことを学ばせていただきました。みんな卒業おめでとう！大人になってもまた会おうね！！

### Class 6
**深松 大地**（剣道部）

どうも三年六組です。私たちは運動には一生懸命。学習にももっっっ･･･と、一生懸命なクラスです。私たちは、三年時の高総体まで毎朝つらい朝補習に取り組んできました。先生方は、とてもとても熱い声援で毎回毎回私たちを御指導下さいました。そしていつも御指導下さる先生方のジャージやスポーツ用品が増えている気がしたことは、スポーツコースの生徒なら一度はあることだろうと思います。

三年間楽しいことがたくさんありました。無事に全員進路が決まり、春からまたそれぞれの場所で頑張っていきたいと思います。

三学年の皆さん、五高で学んだことを忘れずに頑張っていきましょう。

### Class 5
**濱村 歩夢**（バドミントン部）

“光陰矢の如し”とはこのことか…。この一年本当に一瞬でしたね。この一年本当にきつかった。部活も終わって体育祭も終わってどんどん勉強だけの毎日になって本当に辛かったね。でもみんなと目標に向って一生懸命頑張れたのは、みんなにとっても今後の自信に繋がると思います。そして、担任の笹井先生と副担任の樫本先生もすごく個性的でそして熱くて俺等思いでした。四月から始まってこの卒業まで本当に楽しかった。そして俺はこの三年五組で卒業できることを何よりも嬉しく思うし、何よりも誇りに思います。うるさかったかもしれませんが、このクラスで楽しくいさせてくれて、本当にありがとう。

### Class 4
**中路 怜音**（男子バスケットボール部）

僕たち三年四組は二年のときからほとんど同じメンバーで過ごしてきました。いやでも二年間同じ顔を見続けてきました。そんな三年四組での思い出といえば、たくさんありますが、結局は毎日が思い出です☆

とにかく三年四組で笑わない日はない！と言うくらい楽しかったです。

勉強を一生懸命頑張っている三年四組でしたが、勉強していた時間より笑っていた時間の方が多かった気がします。この一年間、三年四組の夢と希望と思い出を腹に蓄えながら見守ってくれた竹添先生と、幸せ太り中のまさる先生と、毎回熱い話で気持ちを奮い立たせてくれる宗田先生には本当に感謝しています。本当にありがとうございました。

最後に･･･みんな大好きピヨ☆